

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	46	大学等名	杏林大学
テーマ	テーマⅢ（高大接続）		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、外国語学部の「日英中トライリンガル人材育成」の事業実施を契機として、「医学部グローバル人材育成プログラム」及び「総合政策学部グローバル・キャリア・プログラム（GCP）」が導入されたことから、グローバル人材育成が全学的に推進されたことがうかがえる。また、全学的にアドバンスト・プレースメントを導入し、平成29年度春学期から実施されたことや、多面的・総合的評価を行うルーブリックを開発し、平成30年度、令和元年度及び令和2年度外国語学部 AO 入試で利用されたことから、高大接続に係る取組が着実に実施され、全学的な取組にも発展していると評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、アドバンスト・プレースメントの本格実施、留学準備集中科目や英語キャンプ・中国語研修の高校生への開放、日英中トライリンガルキャンプ開催、大学生と高校生が共に学び合う「グローバル関連科目」の夏季集中講座開講、高校生対象ライティングセミナーの開催等、多岐にわたる大学レベルの教育が提供されたことから、本事業における取組が拡大し、高大接続が強化されていると評価できる。また、高大接続ラウンドテーブルの定期開催したことに加え、高大連携協定締結校の拡大により、定期的な高校等との意見交換の場を設置し、多様な意見の取得にも努めている。目標の達成状況に関しては、2指標を除き全ての指標で目標値を上回ったことは評価できる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長を委員長とした「AP 推進委員会」の下、「高大接続推進室・高大接続推進委員会」が中心となり各事業項目の具体的実施方法の審議、進捗状況の管理、予算執行状況の管理等の実施に当たっていること、並びに「日英中トライリンガル育成のための高大接続アンケート」の結果に基づき運営上の改善を行い、事業効果拡大を図ったことは評価できる。

事業成果の普及については、アドバンスト・プレースメントの大学間連携の輪を全国に広げるために、アドバンスト・プレースメントラウンドテーブルの開催及びアドバンスト・プレースメントによる大学間単位互換協定の締結を進めていることに加えて、多面的評価ルーブリックの開発を進め、平成30年度外国語学部 AO 入試から事前資格審査として利用することを通して普及を図ったことは評価できる。